

『語り繼がう 日本の思想』『親子で親しむ新百人一首』刊行を祝す

十餘年前、小柳陽太郎『教室から消えた「物を見る目」、「歴史を見る目」』（草思社、平成十二年）を神田の書店にて求む。個性尊重の時流に抗し、修猷館高校名物國語教師たりし小柳先生の古典教育取戻すべしと説く輕妙なる語り口に感銘。其後、偶々國民文化研究會事務局長に面識を得、『名歌でたどる日本の心』を賜る。頁を繰るや、『古事記』より國史に連なる先人の悲喜交々の心ばへ彩る數多の名歌掲載、濃やかな解説あり、美しき和の心に感じ入る。其の編著者は何と小柳陽太郎氏なり、舊知に會ひたる如き喜び滿つ。程なく圓覺寺管長に拜謁したる折、其感動を語りし我に向ひて老師微笑、寺内の前田青邨舊宅にて同書輪讀會を催すべしと應ず。幸なるかな、隔月に名歌に親しむ八年餘、雅な言葉に心寄せ我國史に連なりたる古人の命の流れを辿り味讀。先月末、老齡の小柳先生訃報に接し御冥福を祈る。先生在りし日、圓覺寺境内を車にて案内仕りし事を友人の言葉にて思ひ出す、いと懐かし。

扱 國民文化研究會六十周年記念『語り繼がう 日本の思想』（明成社）今秋刊行、小田村寅二郎先生名著に準じ先人の言葉六十七項目編輯、小柳門下諸氏の力作なり。一例に幕末志士愛讀したる北畠親房の項、「鏡は一物をたくはへず。私の心なくして、萬象をてらすに是非善惡のすがたあらはれずと云ふことなし。其すがたにしたがひて感應するを徳とす。これ正直の本源なり。玉は柔和善順を徳とす。慈悲の本源也。劍は剛利決斷を徳とす。智慧の本源也。此三徳を翕受けずしては、天下のをさまらんことまことにかたかるべし。（略）鏡は明をかたちとせり。心性あきらかなれば、慈悲決斷は其の中にあり。」と。我國柄の本質明らかなり。現代語譯附し青年を導くに資すること大なり。更に今月半ば刊行、小柳左門『親子で親しむ新百人一首』（致知出版社）は『名歌でたどる日本の心』にて愛唱したる歌より撰ばれたる歌留多なり。恩師の遺志繼ぐ小柳門下の古典紹介並青年指導の情熱を稱へたし。又、心潤す良書求めたる人に是非とも届けたし。

（引用部は口語のまゝ、表記は地の文に統一 平成二十八年三月三日受附）